

- 1 主題名 自己の向上と個性の伸長 1－(5)
自ら考え、判断し誠実な生き方 1－(3)
- 2 資料名 「和夫の決断」(『生徒の心にひびく道徳の授業(中学教育 11月号増刊)』
佐藤元の資料一部改 小学館 平成14年11月)

3. 主題設定の理由

○ ねらいとする価値

人間はだれでもよりよく生きたいと願い、自分の個性を生かした充実した生き方を模索するものである。

中学生の時期は、自己理解が徐々に深まり、自分なりの生き方についての関心が高まってくる。その一方で周囲を気にしたり、他人の言動に振り回されたりして、主体性を失ってしまうこともある。高校進学に関しても世の中の流れとして受け止めている傾向にある。そういう生徒たちに、中学校卒業はこれからの人生の自己実現の第一歩であることを認識させたい。自分の長所や個性を考え、目標をもった生き方をすることの大切さを考えさせたい。

○ 生徒の実態

本学級の生徒は、意欲的な態度で学習に臨むことができる。時として一部の生徒の発言で授業が展開していくことがあるが、素直に疑問を口にし、その疑問を解決し理解していこうとする態度をもっている。

生徒たちは、進路指導や学級活動の時間を通して、自分の生き方について向き合い始めている。職場体験学習を終え、自分なりの「働く」意義を見出しつつある。将来やりたい仕事・なりたい職業がある生徒が20名と将来設計については意識も徐々に高まっている。一方で自分の長所が分からず、学力的な問題・家庭の事情等に直面している生徒がいるのも事実であるが、将来、充実した生活を送るためにも自分の意志で決定し進んでいくことの意義を考えさせたい。

○ 資料について

本資料は、進路決定を迫られる「和夫」の心の揺れをテーマにしている。農業高校に進学して跡取りとして生きてほしいと願う両親と、幼いときからのあこがれである宮大工になることを夢見ている和夫。家族の気持ちもよく分かるし、農業が全く嫌なわけではない。しかし、宮大工への道もあきらめきれない。時期的にも決定しなければならず、時間の猶予はあまりない、というものである。

来年は3年生となり、進路選択が自らの問題となる生徒たちにとって、真剣に考えざるを得ない資料である。どういう生き方をしていくのかということを考える契機となる資料である。

○ 指導の重点

指導に当たっては、単に農業高校か宮大工かを考えさせるのではなく、なぜそう考えるのかということを追っていきたい。自分の考えとその理由をグループの中で出し合い、メンバーの意見を聞くことで様々な価値観に触れさせたい。そして、1人で考え込むのではなく、他者の意見を聞きながら自分の考えを深めていくことの意義を感じとらせたい。

4 本時で重点を置いたキャリア諸能力

選択能力	「自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。」 「選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。」 1-(3) 自立の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。(自主・自律と責任)
------	--

(1) 目標

- (2) 展開

佐賀県教育センター キャリア教育

開			けるのか。 ・ どんな仕事をしてても苦しいことはあるだろうけれど、その時自分を支えるものは何か。 ・ 農業はどうしていくのか。 ・ 親の願いは聞かなくていいのか。 など	
	3 考えを整理し、意見を発表する。	○ グループで出た意見を発表してください。 ○ 友達の意見を聞いたり、話し合ったりしたことを参考にし、もう一度ネームプレートをはりましょう。	・ もう一度ネームプレートをはらせ、意思表示させる。考えが変わった生徒は、ピンクのネームカードを外し、黄色のネームカードをはる。 ・ 気持ちが変わった生徒にも発表させる。気持ちの変化を重視するのではなく、考えた過程を重視したい。	話合いの中で出てきた意見や友達の意見を聞き、自分の考えを深め、判断することができる。(ネームカード・観察) 【選択能力】
／				
終	4 授業の感想を書く。	○ 今日の授業で考えたことを書いてください。(どういことを考えたか発表してください。)		
末	5 教師の話聞く。		・ 目標をもって生きていくことが、自分を表現し、自分を成長させる生き方につながることを話す。大いに悩み、人の意見を聞いて、よく考えることの意義について話す。	